招待講演

—— 第1日 8月26日(水) 9:30~11:30 ——

以学館2号ホール

SL001 The Need of a Dialogical Self in a globalizing world グローバル化する世界における対話的自己の必要性

講演者 Radboud University, Hubert J. M. Hermans#
Nijmegen, The Netherlands

司会者 神戸大学 森岡正芳

講演者の紹介

オランダ・Radboud 大学名誉教授。対話的自己という概念の提唱者として著名。『Culture & Psychology』『Theory & Psychology』『Journal of Constructivist Psychology』などの編集委員を歴任。国際対話的自己学会 (International Society for Dialogical Science; ISDS) を主宰し、『The International Society for Dialogical Science』を創刊するなど現在も精力的に活動しています。

参考サイト www.dialogicalself.info および www.dialogicalscience.org

講演の内容

私たちの時代は、自己とアイデンティティのグローバル化がますます大きな影響をもってきている状況に立ち会っているが、それと同時に日増しに膨れ上がる自己とアイデンティティの“不明確さ”にも直面している。その“不明確さ”の経験は、個々人や集団たちがアイデンティティをつくりだすために局所的ニッチ（隙間）を探するという状況を促進している。この講演の中で伝えたいことは、グローバル化（地球規模化）とローカル化（局所化）の両プロセスは、対話的概念としての自己やアイデンティティを求めているということである。言い換えれば、グローバル化とローカル化の過程では、グローバルな声とローカルな声が連続的なやりとり（交換や交渉）の中に含まれているような対話的自己やアイデンティティの概念が必要とされているということだ。本講演では、一個人の水準における両グローバル・ローカル化過程の理解にとって欠くことのできない三要因について説明する。まず、数として増大している声とそれに対抗する声、もう一つは社会的(権)力の役割、最後の一つは感情の役割である。私は、個人・ローカル・グローバルの三つの水準について自己とアイデンティティを研究することにこそ意義があることを提案する。

主な著書・論文

Hermans and Kempen 1993 The dialogical self: meaning as movement Academic Press. (溝上慎一・水間玲子・森岡正芳 訳 2006 対話的自己 新曜社)。

Hermans. & Dimaggio 2007 Self, identity, and globalization in times of uncertainty: A dialogical analysis. Review of General Psychology, 11, 31-61. この論文を含む多くの論文が www.socsci.ru.nl/~hermans/PUBLIC.html からダウンロード可能です。ご活用ください。

講演はハーマンス先生に英語で行ってもらいます。司会者が簡単な解説や概要の説明を日本語で行う予定です。

SL(1)